

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

本プログラムでは、医学・保健学分野における世界水準の専門能力、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び世界の現場で駆使できる英語コミュニケーション能力を有する、アジア及び世界の第一線で活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者及び医療産業人（製薬/ワクチン企業の研究職・医療コンサルタント）など次世代医学・保健学分野で活躍できるグローバルな人材育成に資するプログラムの設定・教育の提供を目的としている。

本プログラムは、神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）、兵庫県立健康生活科学研究所（Hyogo-IPHES）の計7大学・2機関により形成されるコンソーシアムによりプログラムの運営がおこなわれており、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学、及び博士課程の学位取得プログラムの3つで構成される、多層的な派遣・受入交流プログラムである。各プログラムとも、構想時の計画どおり派遣・受入学生数とも順調に推移しており、交流の進展に伴い大学間の関係がより深化することにより、さらなる交流学生数の増加が期待されている。派遣学生については、英語コミュニケーション能力を向上させるために、神戸大学国際コミュニケーションセンターの実施するプレゼンテーション、ディスカッションのスキル及び学術英文論文の書き方等の英語による「派遣前集中教育」を実施し能力の向上の機会を提供した。受入学生については、日本の文化に親しみ、将来日本とASEAN諸国との架け橋となる人材育成を目的とし、神大留学生センターの実施する日本語日本文化クラスを開講し、日本語日本文化を理解できる機会を提供した。さらに、コンソーシアム各大学に双方向遠隔授業システムを導入することにより、各大学で学ぶ大学院生とともに英語による発表会・討論会をおこなうセミナーを開催し、世界の多地点から参加できるプログラムの実施もおこなっている。

本プログラムの活動については、活動の様子をホームページにおいて随時公開し透明性を図ると共に、7大学及び2機関で構成されたコンソーシアム運営委員会において、本プログラムの自己点検評価をおこなっている。医学・保健学分野NPO等の専門家等により構成される外部評価委員会にて、自己点検評価の妥当性を客観的に評価・検証をおこない、それに対する助言を受けることで、事業計画の改善についても努めている。

さらにコンソーシアム以外の大学であるパジャジャラン大学（インドネシア）、フィリピン大学、チッタゴン医科大学（バングラディッシュ）、中国医科大学と大学間・部局間学术交流協定、学生交流実施細則の締結を行ない、大学間交流の枠組み拡大に向けた取組みをおこなっている。また、来日中の学生に学業や日常生活の世話をする学生チューターを雇用することにより、学生間交流の活性化を図っており、プログラム参加学生を中心とした、各大学の学生間による自発的な相互支援関係が構築されつつある。

また、学生交流の活性化に伴い支援する学生数が増加することにより学生支援資金の不足が問題となっている。そこで、宿舍の借上費用を抑えるため、大学関係者・学生家族からホストファミリーを募り、ホームステイの実施を計画している。また、他の資金源による奨学金制度の拡張・整備・充実させるとともに、私費派遣学生の増加を促す活動もおこなっている。

上記のように、本構想によるプログラムは計画通り、順調に進んでおり、年度が進むことによりさらなる発展が期待されている。

**【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】**

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
8名	11名	3名	3名	21名	24名	18名	23名